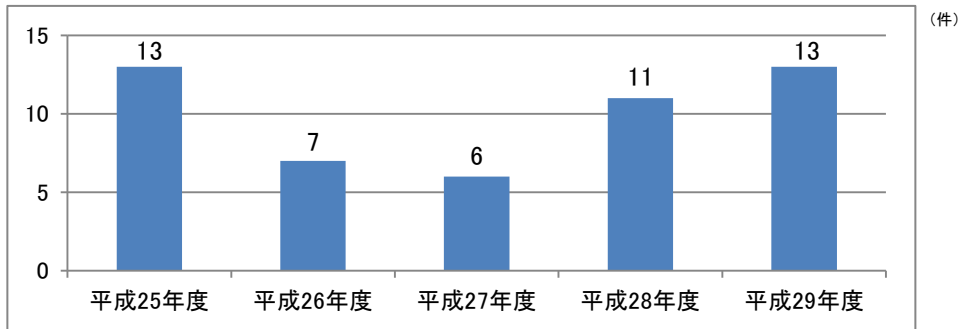


8 臓器移植件数(骨髄)

○項目の解説

白血病などの血液悪性腫瘍の診療は高度な知識、技術、設備のある病院で行なわれる必要があります。その治療方法の一つに骨髄移植があります。これは心臓・肝臓・肺・脾臓・小腸の移植と比較すると、世の中に普及しつつあるため、国立大学附属病院以外でも行われるようになりましたが、高度な医療を提供している証左であるといえます。

○当院の実績



○当院の自己点検評価

【血液・腫瘍内科】血液内科で診療している疾患の大きな部分を占める造血器悪性疾患(白血病、悪性リンパ腫など)においては、造血幹細胞移植はなくてはならない治療方法の一つとして重要な位置を現在でも占めています。当科では病棟に2床の無菌室を有し、自家末梢血幹細胞移植をはじめ、骨髄・末梢血・臍帯血を用いた同種造血幹細胞移植を行っています。また、当院では血縁ドナー・非血縁(骨髄バンク)ドナーの骨髄採取も行い、当院だけではなく他の医療施設とも診療での連携を行っております。道北、道東地区には血液診療を専門とした診療科を有する施設は極めて少なく、特に造血幹細胞移植が施行できる施設は限られており、この地区全体の移植治療の一翼を担い続けています。施行件数としては、年間10例前後の造血幹細胞移植を行っており、ここ数年に関しては年度毎の件数に大きな変化はなく、カバーする医療圏の人口を考えますと妥当な件数を維持していると考えています。また、移植治療においては、地域での病病連携や病診連携を推進しています。病気が発見される方の年齢は近年ますます高齢化しており、高齢者にも安全かつ効果的な移植医療を提供できるよう医師・歯科医師・看護師・薬剤師・臨床検査技師・理学療法士などによる移植チームの診療レベル向上を図ることに加えて、移植前処置や支援療法の改善に努めています。

【小児科】小児科では、北海道内では札幌を除く唯一の移植センターであり、特に道北・道東地区にとって重要な役割を担っております。白血病や神経芽腫などの小児がん、再生不良性貧血、先天性免疫不全症、先天性代謝異常症に対して造血幹細胞移植をおこなっていますが、移植でしか治癒が期待できない疾患は多く、治療手段としていまだに大切な位置を占めています。昨年の移植実施件数は、骨髄移植が1件、臍帯血移植が1件とやや少なかったものの、その後の半年で3例の移植を行っており、年平均5例程度の移植をコンスタントに行なっております。移植の際には集中管理が必要で、スタッフが無菌室内に常駐して対応しており、安全な移植医療を行なうためにも人員は欠かせません。小児科医師、看護師、病棟薬剤師をはじめ、緩和ケアチーム、口腔外科などの関連医師や、理学療法士、病棟保育士にも関わってもらい、小児の発達を促しながら、良質な移植医療を提供できるように努めています。移植施設の条件変更に伴う施設再認定も今年中に申請可能な見通しです。近年、小児がんは70%が治癒するようになってきましたが、その治療成績を維持し、さらに向上させるために移植が果たす役割は大きいと、より高い水準の移植医療をおこなえるよう努めて参りたいと思います。

○定義

当該年度1年間の骨髄移植の件数です。自家移植を含みます。

○算式

実数